

2016年11月27日礼拝メッセージ

主題：御国に定員なし

聖書箇所：ルカ4：31～34

私たちは限りある世界に生きている。受験における合格定員、就職における採用人数、公営住宅における入居者制限、その他いろいろ、いつのまにやら神の国さえもそのような定員があり、競争して入るかのような錯覚に陥ってしまう。そして、妙に頑張り、その反動で人をねたみ、せっかく与えられた人生をしょんぼりとすごすことになる。

しかし、神は無限な方、空間、時間、さらにはその愛においても制限がない。主を私たちの思い込みで小さくしてはならないと思う。

さて世界には一神教が三つある。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教だ。すべてが聖書の神に通じているが、その教えはちがう。ユダヤ教は「神を愛し、人を愛し、旧約の律法を遵守せよ。」キリスト教は「神を愛し、人を愛し、律法を超越せよ。」イスラム教は「戒律（旧約律法を6つにまとめたもの）を守れ。多少失敗してもアラーはあわれんでくださる。」だと言われる。そしてユダヤ教は「細かな規定を守り、人にも守らせよ、そうすれば救われる。」キリスト教は「イエスを信ぜよ。そうすれば何をしても救われる。」イスラム教は「すべてアラーの思し召し（いいことも悪いことも）。」と来る。なんだか細かい話になってきた。しかし、このどれを信じていても人間は似たようなものだ。結局、罪深く自分の力で救いに到達することなどできない。しかし、こんな我々に主イエスは宣教のモデルを示された。

ルカ書でイエスは悪霊を追い出し、病をいやし、神の国を伝えた。なぜイエスはそれをしたか。救われるためではない。また救われたからでもない。父なる神の喜びのためにやったのだ。そして父の喜びを自分のものとした。あけすけに言わせてもらえば「そうしたいからした」のである。したいからする、やりたいからやる宣教である。何とまあ自己中心な、と思うなかれ。イエスの場合はそのやりたい度合いが徹底しているのだ。ご自分の時間も、能力も、持ち物がどれだけあったかわからないが持ち物も、拳句の果てはご自分のいのちをもささげてしまった。ただ「そうしたいから、した」!

わたしたちはどう生きているだろうか、すぐわれるために戦っていますか。それはかなり苦しい。すぐわれたから奮闘していますか。それもまだ頑張りが必要です。そうではない。我々の宣教は「したいからする」宣教なのだ。そして、その時の心はどう表現するべきか考えた。私の語彙力で考えつくことばは「我を忘れて」進むこと。これにつきる。

主は人を愛するあまり「我を忘れて」十字架まで進まれた。私たちの宣教もつまるところ「我を忘れて」することなのだ。そして後で気づくのだ。その時、その場所では聖霊が働いてくださったな、と。